

男たちに許された贅沢

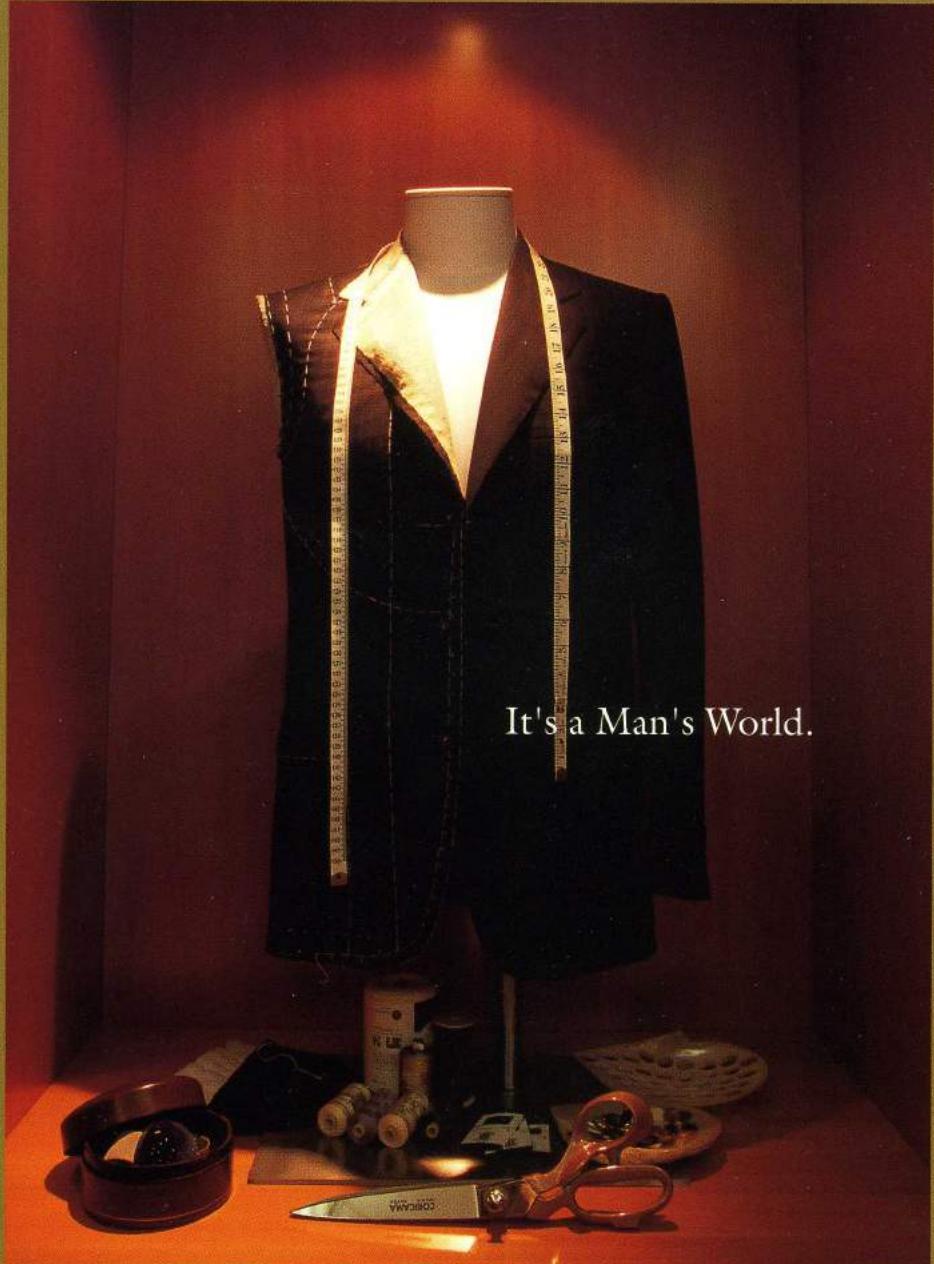
仕立て服の 素晴らしいしき世界

今日、スーツほど男性性を強く意識させるアイテムはほかにない。それを眺えるということは、男にとって自身の美意識を再確認する作業だ。男だけに許された愉しみ、オーダースーツの世界をのぞいてみよう。

中野香織 文 幸田森 写真

Text by Keiji Nakano, photographs by Minoru Kondo

●なかのかおり
服飾史家。エッセイスト。東京大学文学部および教養学部を卒業後、同大学院博士課程単位取得。ケンブリッジ大学客員研究員、東京大学非常勤講師などを経て今に至る。著書に『スーツの神話』(文藝春秋)、訳書に『性とスーツ』(白水社)『イングランド社会史』(筑摩書房・共訳)など。



It's a Man's World.

完成までの時間に思いを馳せるのもオーダーの愉しみだ。ブリオーニのVIPルームにて。

そんなひとりとめのない素朴な疑問を胸に、イギリス、アメリカ、イタリア、フランス、日本という5大国(?)が誇るブランドから店舗選び、各店の訴えスーツの特徴およびスーツに対する考え方をじっくりと取材した(いや、5大国といつてもすべて東京近辺に出店している店舗ばかりであるところにいささか限界があるのだが……)。限界があるかもしれない点はもうひとつ、私が日常的にスーツを着ている男ではない、ということである。話を

贅沢なのか、投資なのか。道楽なのか、最低限の身だしなみなのか。あらゆるサイズバリエーション、多様な需要に対応するように作られた、品質も悪くない既製のスーツがいとも簡単に手に入るこの時代にあって、男性がわざわざスーツを眺めるということはどういう意味があるのだろう。自分のからだに完璧にフィットする自分仕様の一着を作る。この満足はさぞかし深いものであろう。が、完成品を手にするまでには、膨大な数の見本のなかから生地を選び、自分のサイズ

の方法はさまざまある。こまかく採寸し、ひとりひとり独自の型紙を起こし、仮縫いを経て手縫いで仕上げていくフルハンドのフルオーダーから、採寸結果をあらかじめ用意されている型紙におどしこみ、縫製をファクトリーに委託するパターンオーダーにいたるまで……。しかも、そのそれぞれのやり方にしたって、ブランドや仕立て職人によって千差万別と聞く。では、具体的にどんなちがいがあるのか。方法がちがうと仕上がりにいかなる差が出るのか。また、客のライフスタイルとブランドの相性はあるのだろうか。

値段もけっして安くはない。この少なからぬ時間と費用は、自分への投資であるとともに道楽でもあり、同時に快樂でもあるのかもしれないが、それでも、眺えスーツ一着の価値にどの程度見合うものなのかな。また、ひとくちに眺えるといつても、その方法はさまざまある。こまかく採寸し、ひとりひとり独自の型紙を起こし、仮縫いを経て手縫いで仕上げていくフルハンドのフルオーダーから、採寸結果をあらかじめ用意されている型紙におどしこみ、縫製をファクトリーに委託するパターンオーダーにいたるまで……。しかも、そのそれぞれのやり方にしたって、ブランドや仕立て職人によって千差万別と聞く。では、具体的にどんなちがいがあるのか。方法がちがうと仕上がりにいかなる差が出るのか。また、客のライフスタイルとブランドの相性はあるのだろうか。

ながら彼の手でからだのあちこちを触られ、しかもその後、出来上がりまで何週間も待たねばならない……といふ面倒がともなうのである。

値段もけっして安くはない。この少なからぬ時間と費用は、自分への投資であるとともに道楽でもあり、同時に快樂でもあるのかもしれないが、それにして、眺えスーツ一着の価値にどの程度見合うものなのかな。

んなことを聞かれたほどである。「な

んで女性のあなたが男の服のことを書くの? たとえばぼくがプラジャヤは

やっぱりトリンプがいいよねって言つても信用できないでしょ? 男の服の着

心地なんてしません、女性にはわかりません」。はいさぞかし天にも昇るよ

うであろう実際の着心地に関しては、はてしなく想像をめぐらし、悶えつ悔しい思いをするしかありません。

ただ、「着心地」を生む要素のひとつには、周囲（のなかでもとりわけшибアな女性）の目の反応といふ社会的なものもあるのではないかと思うのである。いくら完璧にフィットしていくと、誰とも会わないときには着る必要のない服なのだから、スーツは。こだわりのネイルアートが多くの男性の目には無意味に見える（あるいはまったく目に入らない）ことがあるように、スーツ細部のこだわり仕様のなかには意識の網をすりぬけているものもある。が、そういう「細部が見えない」身だからこそありありと目に映るものもまたある……かもしれないのだ。

それでは、いざ、めくるめく高級オーダースーツの世界へ。はたしてそこにはどんな光景が待っているのか。着用者と「ブランドの個性が競演するダブルネーム

東京・銀座の並木通りに一面ガラス張りのアティック構えるダンヒル。一步、足を踏み入れると、高級な革の香りに包まれる。店内には1920年代後半に日本の並木製作所（現バイロット）と製作した蒔絵の万年筆、ダンヒルナミキペンをはじめ、ヴィンテージものの銀製品など、老舗ならでは



ダンヒルではプレザーのオーダーも可能。ゴールドとシルバーのボタン、いずれかを選ぶことができる。壁の型紙は元横綱・曙のもの。

Dunhill

ダンヒル

ダンヒルは、日本サッカー協会（JFA）の公式ユニフォームとしてスツー式を提供している。さりげなくJFAのマークが入ったネクタイが、これまでごくさりげなくネクタイコーナーの片隅に置かれているのが好らしい。公式に提供されているというサッカーボール型のカフリンク（キュート！）もある。



ダンヒルレッドのレザーテーブルに出迎えられる、通称「ビスポートルーム」。

仕上がるまでの時間と費用は投資であり道楽であり、快楽でもある

Information

価格：500,000円～
納期：5週間
ダンヒル 銀座 並木通り 本店
東京都中央区銀座6-7-15
tel.03-3289-0511
午前11時～午後8時 無休

どこか保守的でお堅めリッチな印象を受けるプロフィールである。店内には既製服も並び、サイズさえほぼ合えばこっちを修正して着ればいいではないか、と思うのだが、スーツの場合、そろそろの位置がずれ、全体のバランスが微妙にちぐはぐになるのである。

ブリティッシュ・スポーティ・シックとも呼ぶべきダンヒルのティエストを、あなたのからだのバランスのなかに完璧に表現しようと思えば、からだに合わせたパターンオーダーでなければならぬ。成果はいわば、ダンヒルとあなたの個性それが際立つコラボレーション（ネームタグのダブルネームこそ、その証？）。高級ブランドのパターンオーダーの楽しみのひとつはここにあり、と見た。

日本の背広の安心感と 大統領の服のプライド

同じく体型補正のできるパターンオーダーでも、アメリカの「大統領の服」を作るブランドこと、ヒッキー・フリーマンの場合はどうだろう。

ヒッキーらしいモデルは「ボーダルーム（重役室型）と呼ばれるもので、リラックス感のあるボックスシルエットが特徴。50代、60代を中心に上は80代までの顧客から支持を得ている。見た目の印象は、「スポーツと入る、鎧スイツ」（生地はあくまでソフトなのだが）。これには根拠があり、大丸東京店にあるヒッキーの店長によれば、「湿度が多い日本では海外で縫製したスーツをもつてくるとビリという波が出ることもあります。ピリが出ないよ

う芯地を使ってがつちり仕上げるのが日本のヒッキー流。日本の風土に合った仕立て方を大切にしていま

す」とのこと。

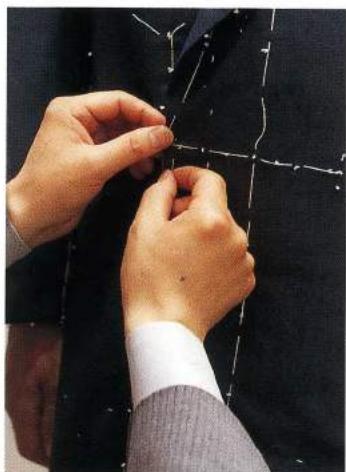
お話をうかがったヒッキーの店は東京駅直結のデパートのなかにある。場所柄、地方からの出張がてら、ぶらつと入って「知らなかつたのに、作つてみたら非常によかつた」とリピーターになる顧客も多いそう。ちなみにリピート率80パーセント。顧客の7割が、毎年、2～3回オーダーする「長年の得意様」。ヒッキーのオーダースーツが与える安定した満足感は、こうした数字からもうかがえよう。

店長に「ヒッキー・フリーマンをぜひ着てほしい日本人は？」と聞くと、

「長嶋さんに着ていただきたい」と答えてくれた。なるほど、このブランドのテーマ「リラックス・ラグジュアリー」を体现する日本人男性のイメージとしては、長嶋茂雄さんがぴったり。

海外ブランドとはい、「日本の背広」的な安心感も残すのがヒッキーの強みと見える。では一般的のイメージオーダーとはどこがちがうのか？ 服地や縫製もさることながら、最大の要素は「大統領の服」を作るブランドであるという誇りではないかと推測する。

目に見えない幻のような要素かもしれないが、着用者がその幻影を脳裏に感じることで「貴様」が生まれることがあるとしたら、それも悪くない効用ではな



フロントとウエストの縫り具合をボタン位置で調節することにより、ヒッキー・フリーマン特有の「鎧」のようなシルエットが生まれる。



ヒッキー・フリーマンのスーツは330以上に細分化された工程を経て作られる。全体の7～8割は今でも熟練した職人の手作業にゆだねられている。

Information

価格：240,000円～

納期：3週間(仮縫い付きは4週間)

ヒッキー・フリーマン 大丸 東京店

東京都千代田区丸の内1-9-1 tel.03-3212-8011(代表)

午前10時～午後8時(土・日・祝日は午後8時まで) 無休

Hicky Freeman

ヒッキー・フリーマン

アメリカで1899年に創業したヒッキー・フリーマン。アイゼンハワー、フォード、ニクソンなど歴代の大統領を顧客にもち、「大統領の服」を作る店として知られる。日本では1983年にトレンザがヒッキー・フリーマンと技術提携を結ぶ。大阪に自社縫製工場をもつため、仕上がりが早い。



2001年冬、ニューヨーク5番街にオープンした旗艦店のイメージを受け継ぐヒッキー・フリーマン東京店。

男のスーツの「着心地」を左右する 女性の視線という社会的要因



ストイックで毅然としながらも、不思議と贅沢なくつろぎ感を与えるVIPルーム。

Giorgio Armani

ジョルジオ アルマーニ

建築家クラウディオ・シルヴェストリンとの
コラボレーションで設計されたジョルジオアルマーニ東京店。
フランスの山から切り出したというクリーム色の石、
セントマキシミントーンを、天井や壁に埋め込まれた
間接照明が照らします。ここには建物の外とはまったく
異なる時間が流れる（というかこの空間には時計がない）。



スタッフの年齢層は
20代後半からと比較的若め。
トレンドを重視する
ブランドの姿勢が垣間見える。

「アルマーニのスーツの着心地は？」
と聞くと、「外観からは判断できない、
キヨーレッな着心地です。着心地はお
そらく世界一でしょう」という答えが
返ってきた。この「キヨーレツ」には
おそらく女性からの視線を受ける快樂
も含まれている……はずである。

Information

価格：500,000円～
納期：約7週間
ジョルジオアルマーニ 東京店
東京都千代田区紀尾井町4-5
tel.03-3221-2571
午前11時～午後7時
(木曜日は午後9時まで) 無休

さて、ダンヒルもヒッキー・フリーマンも、スーツの寿命に関しては、デザインがそれほど大きく流行に左右されないので、ケアさえ怠らなければ5年から10年は着用可能と太鼓判を押す。そりやあ、高級スーツに投資するなら、それだけもつてもらわなきやね。そんな考え方がある一方で、「スースの寿命は、1年ですね。去年のものは古いです。毎年新しさを追求しています」と言い切るブランドもある。ジョルジオアルマーニである。

アルマーニのオーダーシステム「メイドトゥメジャー」もまた、パートナーでオーダーである。これは顧客に「アルマーニのデザインしたものをジャストサイズで楽しんでもらおう」という意図から始められたサービスである。はじめにアルマーニのコレクションあたり、のオーダースーツなのである。だから、「定番はキレイ」というデザイナーの美意識にしたがえば、1年で「古くなる」のもむべなるかな。

奥のVIPルームで採寸し、パターンを選んでから約50日後、あなたのからだに合わせて作られたアルマーニのスーツが届く。ネームタグには、(GIO

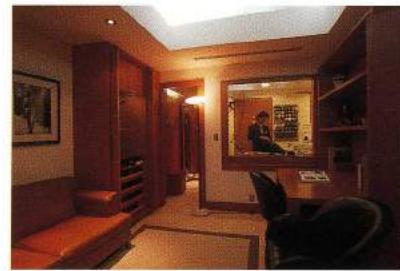
と、他ブランドの「10年着られるスース」はどこがちがうのか？ この点をマーチャンダイジング担当者に聞いたところ、最大のちがいは素材にある、という。「夜の素材を昼にもつてきたのが、アルマーニ」であり、化織を入れた独特の厳選素材によって「男の色気」を出すよう工夫されている、と。男の色気、ねえ……。そういえば、この担当者のスーツ（ビジネス顔したアルマーニ）にはさきほどから胸騒ぎがする。腕を上げたときの肩の動き、歩くときに波打つ背中のドレープ、パンツの微妙なゆれ具合（独特の素材ならではのものであろう）に、知らず知らずと目が奪われてしまう。この視線誘導効果が色気と無関係、とは言えまい。

一年単位で更新される
男の色気とスーツの寿命

RGIO ARMANI for Kaori Nakano
と刺繡される。アルマーニ・ファンにはこたえられないだろう。

Infomation

価格：500,000円～
納期：約8週間
ブリオーニ 銀座店
東京都中央区銀座4-3-13
tel.03-5524-2630
午前11時～午後8時 無休



銀座店の地下1階にあるVIPルームとアトリエ。店内のインテリアは、イタリアの本店同様、素材に洋ナシが用いられている。

華やかなオーラを放ち
酒より酔わすブリオーニ
同じイタリアのブランドでも、がらりと異なる印象のスーツを作るのがブリオーニである。
「ス・ミズーラ（パターンオーダー）」ではあるが、かぎりなくフルオーダーに近い。こまかに採寸ののち、イタリアで縫製し、約8週間後に日本に届く。修理、補正はすべて銀座にあるブリオーニの地下アトリエでおこなう。

ブリオーニのスーツの特徴はといえば、「印象がそれほど強くないこと」。アのファッショニ性とイギリスの「世代から世代へ」感をほどよくブレンドしたのがブリオーニ、というところか。

芯地に工夫が施されており、客がはおると、まず「軽い！」という第一声が出るという。

世界中に支店をもつブランドゆえ、各民族の体型に合わせたモデルがあり、日本エクスクルーシブ・モデルのボトムも作られている。「テンシ（天使）」である。発案者であるマスター・テールーストネームを日本語訳して名づけられたもの。日本人がブリオーニのベー

シック・モデルでパンツを作ると誰もが同じような補正を必要とするので、ならば最初から日本人仕様のモデルを、と生まれたらしい。「テンシ」は股上が若干深く、ヒップラインの生地分量が少なめ……つてそれ、日本男児のお尻が扁平で縦長、ってことですか？！

ブリオーニ 銀座店の顧客の様子を、銀座七丁目にあるランバンブティックの2階、秘密めいた扉の奥に、ここは18世紀のフランス？という空間が広がる。浮き彫りを施された

Brioni

ブリオーニ

オーダーのデータは世界各地にあるブリオーニの支店で共有されるため、たとえば日本で採寸しローマで生地を選んで仕立てもらうといった、世界を股にかけた（！）オーダー方法も可能。世界中のブリオーニには共通言語がある。「ノメンターノ（定番モデル）」や「デルタ（標準パンツモデル）」など、特有の型の名前がそれ。



ス・ミズーラのスーツには織りネームのほかに、オーダー時の顧客ナンバーが右前身ごろのポケット内側のタグに名前と一緒に表記される。

聞くと、他店とは顕著に異なる特徴があることがわかる。他店の多くでは「奥様または秘書をご同伴」でスーツをオーダーするケースが多いのにに対し、この店では「ひとりで来店」する客が圧倒的に多いそうなのである。さらに、そんな顧客のなには「お酒を飲まない、または飲めない方が多い」というのも驚きであった。アトリエにはコニヤックのボトルも飾られ、ジエームズ・ボンドばりにグラスを傾げつつ採寸させる顧客の図を（ひじょうに安易だが）想像していたからである。

「ひとりでオーダー」し、「お酒を飲まない」顧客……。他店とは相通じることのないこのプロフィールからは、お酒にかかるであろうお金を服にかけている、ほんとうに服好きな男性というイメージが漠然と浮かびあがる。

「服好き」のなかには、好みが高じて特殊に走るケースもままあるようだ。そういう客からの信頼もブリオーニは受けとめている。「サファリジャケット」や「シガーパーに行くときのためジャケット」という特殊な注文にも対応して、喜ばれているという。

ブリオーニの特注ジャケットを着てシガーパーの主役になる。酒より酔える、というものだろう。

秘密の扉の奥に広がる
フルオーダーの世界



グレーホワイトの壁、ロココ調の椅子にシャンデリア、そして一方の壁には間接照明に照らし出された服地がゆったりと並ぶ。棚にぎっしりと生地をつめこまず、上部に広く空間をもたせて陳列するというディスプレイは、テークレセクションのマネージャー、仲山軍作氏のアイディアによるもの。

軍作先生（とランパンのスタッフは呼ぶ）は、都心のある百貨店のオーダースーツ部門を30年以上担当し、各界の大物のスーツを任されてきたという経歴を持つ。ここで生まれるフルオーダースーツ（数ある外資ブランドの直営店のなかで唯一ランパンのみがフルオーダーのスーツを扱う）は、フランスのエスプリを軍作先生の過去30年のテクニックを通して具現化する作品、と呼べそうだ。

ランパン銀座店の空間に戻ろう。この非日常空間にあっては、「この生地おいくら？」なんてとても聞けない。軍作先生も言う。「百貨店時代にはまずお金の話から始めたものでしたが、ここだとお客様はお金のことはおつしやらない。同じお客様でもここへ来るときおしゃらなくなるんですよ」と。たとえるなら、高級バーへいくようなもの、と軍作先生。

おそらく価格の面でも最高レベルに属すると思うのだが、その寿命はどう聞くと、「ムカシ7年、今5年というけれど、うちの場合は1年。1年でいらないよ」というお客様も多くいらっしゃいますね」。し、しつれいしましたつ（もちろん5年以上「もつ」スーツであることにはちがいないのです、念のため）。

高級バーであれば客のなかには「困

ったちやん」も多いであろうが、困ってしまうような客の態度はあるか？と聞けば「任せせるよ」「プロだからわかるだろう」っていうお客様は困る、とのこと。そういう場合は、どこでどういう目的で着るのかを聞きだし、つほど候補をあげつつ、「話術で」納得へと導いていくのだそう。

ちなみにランパン・ブティック1階にあるレディースの試着室「オペラの間」には花びらがしきづめられ、ほのかな香水の香りが2階にまで漂う。パリの香りのなかで軍作先生のカリスマ的技術に導かれつつ、かつて知らなかつた高みに連れて行かれる快感がここにはあるのかもしれない。高級バーに何度も通う男性がどこか肝が据わって（どういうか諦念を身につけて？）いくように見えることがあるように、こんな店でのフルオーダーを経験した客にもそれがなりの自信というおまけがついてくるのであろう。「知つてしまつた僕」の落ち着き、というか。

20数頭の馬主だというある顧客は、自分の馬がレースに臨む際には必ずランパンのスーツを着るという。「縁起が良いから」だそうだが、そのエピソードを聞いて、知つてしまつた者特有の強気の樂觀を見る思いがした。たしかに敷居は高いが、敷居の向こう側には、踏み越える勇気（と経済力）に値

フルオーダーといつ禁断の果実を食べた者がたどり着く新天地とは

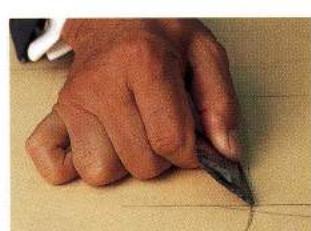


今年2月にリニューアルした銀座店3階のアトリエ。オーダーシャツ専任のスタッフも新たに増員され、現在は仲山氏を含む2名のテーラーと1名のカッターが常駐する。

Lanvin

ランパン

ランパンのスーツ、「ランパン・タイユール」の特徴は、レディース・キュールから発したブランドだけあって、「ぎしづこない」やさしさにある。肩幅はやや広め、着丈は長めのシングル3つボタン。インカーブによる丸みのあるシルエットに、フィッシュマウス（魚の口）型のラベル。フランス政財界のトップにはランパン愛用者が数多くいる。



一着分の型紙をおこすのに必要な時間は30分程度。仲山氏の滑らかな手の動きから、至福の着心地が生まれる。

Information

価格：420,000円～

納期：約6週間

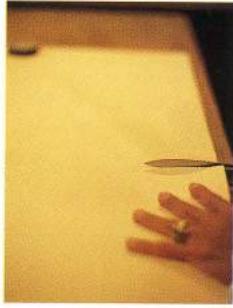
*オーダーはアポイント制のため、事前に予約が必要

ランパン ブティック銀座店 メゾン・ランパン

東京都中央区銀座7-9-17 tel.03-3289-2782

午前11時30分～午後8時

(土・日・祝日は午後7時まで) 無休



高橋氏は、ひとつひとつの型紙に会話から得られた顧客の好みなどをメモして保存しているという。

する新天地が待っている……らしい。

テーラーとの対話が導く
完璧なるファイット感

高い敷居をえいやっと越える。銀座四丁目のビルの3階。わざわざエレベーターに乗り、3階のボタンを押すのは、「ほかならぬこの店で、服を眺める」という確たる目的をもつた客のみ。物理的・心理的敷居はかなり高い。

大正時代から「クラウンテーラー」としてその名をとどろかせる、高橋洋服店である。現社長は1991年から先代に代わって店を継ぐ3代目、高橋純さんである。

幼少より仕立て職人たちの膝の上で遊び、小学校の卒業作文にすでに「将来は洋服屋になる」と書いていた高橋さんは、これぞ日本の仕立て屋さん、という風格と魅力を備えた、襟付きベストの似合う筋金入りのザ・テーラーである。

高橋さんがテーラーとして何よりも大切にしているのは、顧客との信頼関係であるという。注文服を受注するにあたっては、100パーセントの信頼関係が必要なので、先代が亡くなつたとき、その顧客ひとりひとりに手紙を書いたという。その結果、高橋さんの

代になつて注文をやめた人はひとりもない。「ふつうは代がわりすると洋服が変わつたとおっしゃつてお客様が離れてしまわることが多いのですが、うちの店では先代が技術の伝承を大切にしたので、それはありませんでした。料理の味付けと同じだと思います」と高橋さんは説明するが、技術の面ばかりではなく、高橋さんのチャーミングな人柄にも離れがたいものがあつたのではないかと思う。

これぞ高橋洋服店の服、という特徴

はありますか? と質問をしてみると、「お客様がこんな洋服を着たい、とおっしゃる洋服を作つてさしあげるのが注文洋服屋の使命です。でもそのなかで高橋の洋服のアイデンティティを失わないように努力しています。しかしこれは誰が見てもすぐにわかるようなものではありません」と前置きしてから、こんな風に続けた。「あるとき、電車で本を読んでいらっしゃる紳士が素敵な洋服をお召しになつているので、ああいう洋服を作りたいなあと思つて見ていました。その方が顔を上げると、うちのお客様でした」。この時、高橋さんは幸福を感じたといふ。「自分の作りたい洋服が作れている、ということ。自分で作った洋服がわかる、ということ。この2点を確認できることは幸せですね。洋服屋のアイデンティティにかかる問題ですか

ら」とやや恥じらいを見せつつ笑う。

そんな高橋さんが誇りとする服は、人台にかけるといい格好にならない。ひとりひとりの体型を補正するよう

に作り、人のからだにバランスよく「ハンギングすること」を第一に作



高橋洋服店のモットーである、「誰が仕立てても同じ洋服」作りの鍵は正確なカーブの裁断だ。

高橋洋服店

Takahashi Yofukuten

全工程を自家工場で縫製するフルオーダーは仮縫いまでが2~3週間、その後完成までさらに2~3週間。ほかに採寸・裁断・仮縫い・補正・本縫いというプロセスはまったく同じだが、裁断と縫製工程を提携工場に委託する「ハイブリッド オーダー グリーンレベル」仕立もある(価格は130,000円~、納期は約4週間)。



店内には銀座の目抜き通りに面したビルの3階とは思えないほどの静謐な時間が流れている。

Information

価格: 300,000円~
納期: 6週間
(フルオーダーの場合)
高橋洋服店
東京都中央区銀座4-3-9
タカハシクイーンズハウス3階
tel.03-3561-0505
午前10時30分~午後7時 日・祝日休



Ralph Lauren
ラルフ ローレン 銀座
ラルフ ローレンのティストを活かした「パーソナルパターンメイド」。基本となるのは7モデルで既製品にない生地も扱っている。価格：109,200円～ 納期：3週間 東京都中央区銀座1-6-10 tel.03-3562-1500 午前11時～午後7時30分 無休



Burberry
バーバリー銀座店
バターンオーダーは銀座店オリジナルを含む13型で展開。フルオーダーは間に仮縫いを挟み1カ月で完成する。価格：280,000円～ 納期：1カ月（ともにフルオーダーの場合） 東京都中央区銀座8-8-9 tel.03-5537-6160 午前11時～午後8時 不定休



Raffineria
ラフィネリア
イタリア・ナボリのサルト、「サルトリア・ダルクオーレ」を国内で唯一展開する。着心地を追求したシャツのように柔らかな着心地が特徴。価格：415,000円～ 納期：約2カ月 東京都港区西麻布1-4-20 tel.03-5772-2426 午前11時30分～午後8時 無休



Ermengildo Zegna
エルメネジルド ゼニア 銀座直営店
約450種類もの服地と、100型を超えるモデルから選べる「ス・ミズーラスース」。ヨーロッパの工場で縫製され、日本でのセカンドフィッティングを経て完成する。価格：239,400円～ 納期：5～6週間 東京都中央区銀座5-6-12 tel.03-3575-0646 午前11時～午後8時 無休



Beams
ビームス ハウス
長年にわたり培った技術が投入された「カスタム テーラー ビームス」は、オーダー後約2～3週間で仮縫いを経てその後3週間ほどで完成する。価格：142,000円～ 納期：6週間 東京都千代田区丸ノ内2-4-1 丸ビル1階 tel.03-5220-8686 午前11時～午後9時（日・祝日は午後8時まで） 不定休



Givenchy
ジバンシィ メンズブティック 青山
スーツのみならずジャケットと、昨年からはコートの受注もスタートしたバターンオーダーサービス「アトリエ」。写真は青山店に設けられた専用スペース。価格：138,000円～ 納期：約3週間 東京都港区南青山1-1-1 青山ツイン東館 tel.03-5785-3431 午前11時～午後8時 無休



The Sovereign House
ザソブリンハウス
定評のあるオリジナルスーツの良さをそのまま味わえるバターンオーダーは今年6月から開始。ベルベットなど海外ブランドの受注会にも積極的だ。価格：120,000円～ 納期：1カ月 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル1階 tel.03-6212-2150 午前11時～午後8時 無休



Ships
ギンザ シップス
フルオーダーのビスポークラインは大部分が手作業で仕上げられる。クリーニングやメンテナンスなどアフターサービスも充実している。価格：156,000円～ 紳期：7週間 東京都中央区銀座3-4-15 莉進銀座ビル tel.03-3564-5547 午前11時～午後8時 無休

究極の着心地は信頼の店選びから

自分のために仕立てられたスーツは袖を通した瞬間に、申し分のない着心地と、満足感と誇りをもって身体を優しく包み込む。ここに厳選した8ブランドでなら、きっと自分仕様の一着と出会えるはずだ。



るから、もともと「理想的」な人台にかけるとかえてみともなくなるのだそう（この点は既製服と注文服の決定的なちがいもある）。

高橋さんが考慮する補正箇所は体型ばかりではない。立ち時間が長いのか、座つていることが多いのか、どんなチュエーションで着用するのか……。立つて美しいズボンは階段を上りにくいこともあるので、そのあたりの美と実用の妥協点を見極めることも重視する。だからこそ、客には「仕事の話を自分から切り出していたみたい」という。客の話をじっくり聞きながら注文を受ける（ビスポーク）のは、誰ひとりとして同じ体型の人がいないように、誰ひとりとして同じ立場や思いでスー

シカ意識にのぼらないかもしれないそれらのことを、テーラーとの心を開いた対話を通してひとつひとつ組状に載せ、具体的に確かめていく。そうした作業の成果もまた、ズボン姿の動静にじみ出ないはずはない。

ひとくちにズボンを説えるといっても、今回取材した6店だけで、これはど鮮烈なちがいがあるとは当初思いもよらなかつた。バターンオーダーだけ

私はほんの少し嫉妬する。そのズボンの着心地に対してではなく、説えの過程がもたらす、自己確認作業をふくむ多様な快楽が、ほとんど男たちの前ばかりに豊かに広がつてることを。●

ツを着る人がいないからでもある。「究極のフィット感」を与える服とは、体型ばかりでなく、日ごろのからだの動きや社会的なシチュエーション、そして気持ちにもフィットする服を言うのである。既製服ならばばんやりとしか意識にのぼらないかもしれないそれらのことを、テーラーとの心を開いた対話を通してひとつひとつ組状に載せ、具体的に確かめていく。そうした作業の成果もまた、ズボン姿の動静にじみ出ないはずはない。

をとっても、耐久性を誇るブランドもあれば、時流を作る短命に美意識をおくブランドもある。フルオーダーにしても、贅沢感を通して着用者の自信レベルを高めるような眺え方もあれ、あらゆる面からのフィットという